

平成16年1月

各位

経営トップ向けセミナー

株式会社日本総合研究所
研究事業本部

先の見えない時代の経営革新を実現する情報システム再構築 セミナー
—スリムでスピード感を持ったマネジメントの仕組み構築と情報システム再構築の確実な実行—

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社では、かねてより企業経営におけるビジネスシステム戦略の重要性に基づき、マネジメントのあり方に関して、広く経営者の方々に提案させて頂いて参りました。今回はその一環として、「先の見えない時代の経営改革を実現する情報システム再構築」をテーマに、「スリムでスピード感を持ったマネジメントの仕組み構築と情報システム再構築の確実な実行」に関する経営トップ向けセミナーを企画致しました。

さて、一時の低迷期は徐々に脱しようとしている経済環境下ではありますが、企業経営の厳しさは一段と増し、様々な業界においても「勝ち組企業」と「負け組企業」との二極化が進んでいます。さらに「先の読めない時代」といわれ、将来の不確実性が増し、従来型マネジメントの仕組みでは対応できない状況が生まれています。また、旧来情報システムも再構築を迫られる中、企業経営におけるITの役割はますます重要になり、効果的なIT投資が要請されています。経営改革と情報システム改革は車の両輪であり、相互に連携をとりながら確実に前進してこそ、不確実な経済環境下で成長可能な企業となりうるのです。

このような経済環境の変化を背景に、経営改革や情報システム再構築に取り組まれている企業も数多くありますが、なかなか成果が上がらないことが多いのも事実です。その原因の一つには、経営改革が要求するスピードに2～3年にわたる抜本的な情報システム再構築では間に合わないという事実があります。先の見えない時代において、段階的な経営改革を積み重ねつつ、継続し、繰り返し行っていくことが非常に重要と考えます。まず、企業の良し悪しを客観的かつ迅速に把握するマネジメントの仕組み構築と業務効率化による改革余力の導出です。その上で、その導き出された余力をもって営業力改革や基幹業務改革を達成します。一方、情報システムに関しては、統合基盤のうえで既存資産を有効活用しつつ、段階的な開発やパッケージの利用により経営改革を支援する確実な情報システム再構築を行っていくことが重要と考えます。

本セミナーでは、以上の問題意識にたち、スリムでスピード感を持ったマネジメントの仕組み構築と情報システム再構築の確実な実行に向けた進め方について提案させていただきます。

なお、本セミナーは経営トップ向けに企画致しました。経営トップ及び経営幹部自らのご参加をお待ち致しております。

敬具

セミナー実施要領

1. 日 時 平成16年2月6日(金) 13:30～17:00
2. 会 場 東京都中央区築地4-1-14
JJK(全国情報サービス産業厚生年金基金)会館 セミナールーム
TEL. 03-3546-5152
3. 主 催 株式会社日本総合研究所 研究事業本部
東京都千代田区一番町16番 TEL. 03-3288-4301
4. 講 師 裏面参照
5. 対象者 社長、経営企画部門長、情報システム部門長他経営幹部の方々
受講に際して特に情報技術に関する詳細知識は必要としません。
6. 受講料 10,000円
7. 定 員 50名

セミナー実施内容

[セミナー講師]

兼為 勇次郎 弊社上席主任研究員・ビジネスシステム戦略クラスター長

ビジネスシステム戦略を総括テーマとした経営コンサルティングに従事している。
経営総合診断、ビジネスモデル革新、経営改革、業務改革、ビジネスプロセス・リエンジニアリング、情報戦略策定、
情報システム再構築など、多数のプロジェクトを手がけている。

谷口 勝則 弊社主任研究員・公認会計士

グループ経営等における管理会計制度設計や業務BPRを専門とし、かつERP導入の経験を通して、ITを利用した
制度・業務改革を実現するビジネスシステム戦略に係るコンサルティングに従事している。

田原 敏夫 弊社産業ソリューション事業本部 システムアナリスト(情報処理技術者)

情報戦略の策定、業務BPR&システム基本構想策定、プロジェクトマネジメントを専門とし、システム再構築プロジェクトを
有効的かつ効率的に実現するシステムコンサルティングに従事している。

[セミナーの主な内容]

1. 企業をとりまく経営環境の変化と抜本的な経営革新の必要性
 - ・日本再生の流れの中の経営環境・・・競争激化、事業再生、日本型経営の限界、IT革命
 - ・抜本的な経営革新の課題・・・事業モデル革新、マネジメントモデル革新、高コスト体質是正、競争力強化
 - ・全社的な情報システム再構築の課題・・・高コスト対策、スピーディかつ抜本的な改革、経営革新の効果的支援
2. 経営革新と情報システム再構築のスピーディかつ着実な実行
 - ・スピーディかつ着実に実行する経営革新のシナリオ
 - ・経営革新の着実な実行を支援する情報システム再構築のシナリオ
 - ・ビジネスシステムイノベーションの提案・・・事業モデル革新、経営モデル革新
3. マネジメントモデル革新 — 経営状態を正しくかつ迅速に把握する
 - ・経営戦略の遂行状況と財務計数の把握 — 管理会計の重要性増大
 - ・バランススコアカードによる経営構造の把握
 - ー先行指標と結果指標、プロセス指標と財務指標
 - ー客観的な評価指標として望ましい経営管理指標の選択
4. 業務革新(業務効率化) — スリムにして余力を出す
 - ・BPR(ビジネスプロセスリエンジニアリング)による効率経営の追求
 - ー業務棚卸及び業務量調査による不要な業務の整理
 - ー権限委譲による承認手続きの簡素化
 - ・シェアードサービスによる支援・間接部門の集中化
 - ・リスクマネジメントのあり方と内部統制の構築、運用
5. 情報システム再構築
 - ・ローコストかつローリスクを指向するシステム再構築の考慮点
 - ー個別開発アプローチ
 - ーERPアプローチ
 - ー統合基盤アプローチ
 - ー各再構築アプローチの比較評価
 - ・統合基盤アプローチによる情報システム再構築
 - ーシステム構想策定の重要性
 - ーフェーズド・アプローチ
 - ーシステム実現イメージ

経営改革や情報システム再構築への期待と課題

経営改革

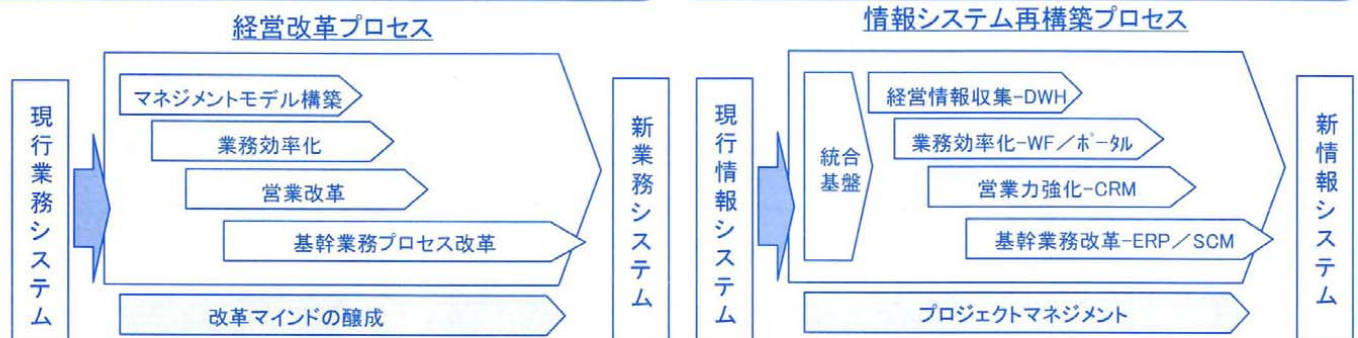
ー 迅速かつ確実な改革の実行

- ・経営改革の方向性は打ち出せるものの実行ができない。
- ・経営改革のベースとなる情報システム再構築に時間を要する。
- ・全社的(部門横断的)な改革が進められない。
- ・そもそも何が良く、何が悪いのかを計る基準が不明確。
- ・先の読めない時代、短期間で成果の出る改革の積み重ねこそ実効性のある改革が達成できる。

情報システム再構築

ー ローコストかつローリスクでの再構築

- ・メインフレームのリースアップを機に再構築が必須。
- ・現行システムでは経営改革ニーズに対応できない。
- ・運用、メンテナンスコストが高い。
- ・IT投資判断が適切にできず、投資が野放図に拡大する。
- ・ERPビックバン導入はリスクが大きすぎる上、思ったほどの経営改革のツールになっていない。



経営(業務)改革と情報システム再構築の連携をとった確実な実行
ー 段階的な改革の実現により改革への機運を醸成しつつ、継続的な改革の実現ー

*統合基盤とは、分散されたシステム間のデータ連携及びマスタ統合等、システム開発上の基盤を提供し、開発生産性・品質を高めるとともに、段階的なシステム再構築を可能とするための製品・サービス群。

経営改革及び情報システム再構築プロジェクト推進プロセス

- 経営改革及び情報システム再構築はビジョンをまず描いて上で進めることが重要です。
- 以降の実行に当たっては、重要性や容易性に基づく優先順位に従って、段階的に改革を進めます。
例えば、業務棚卸によるスリム化やDWHを利用した管理会計の充実は先行して取組み、基幹系情報システム再構築が必要なものは、手順に従って経営業務改革と情報システム再構築を統合的に進めます。

